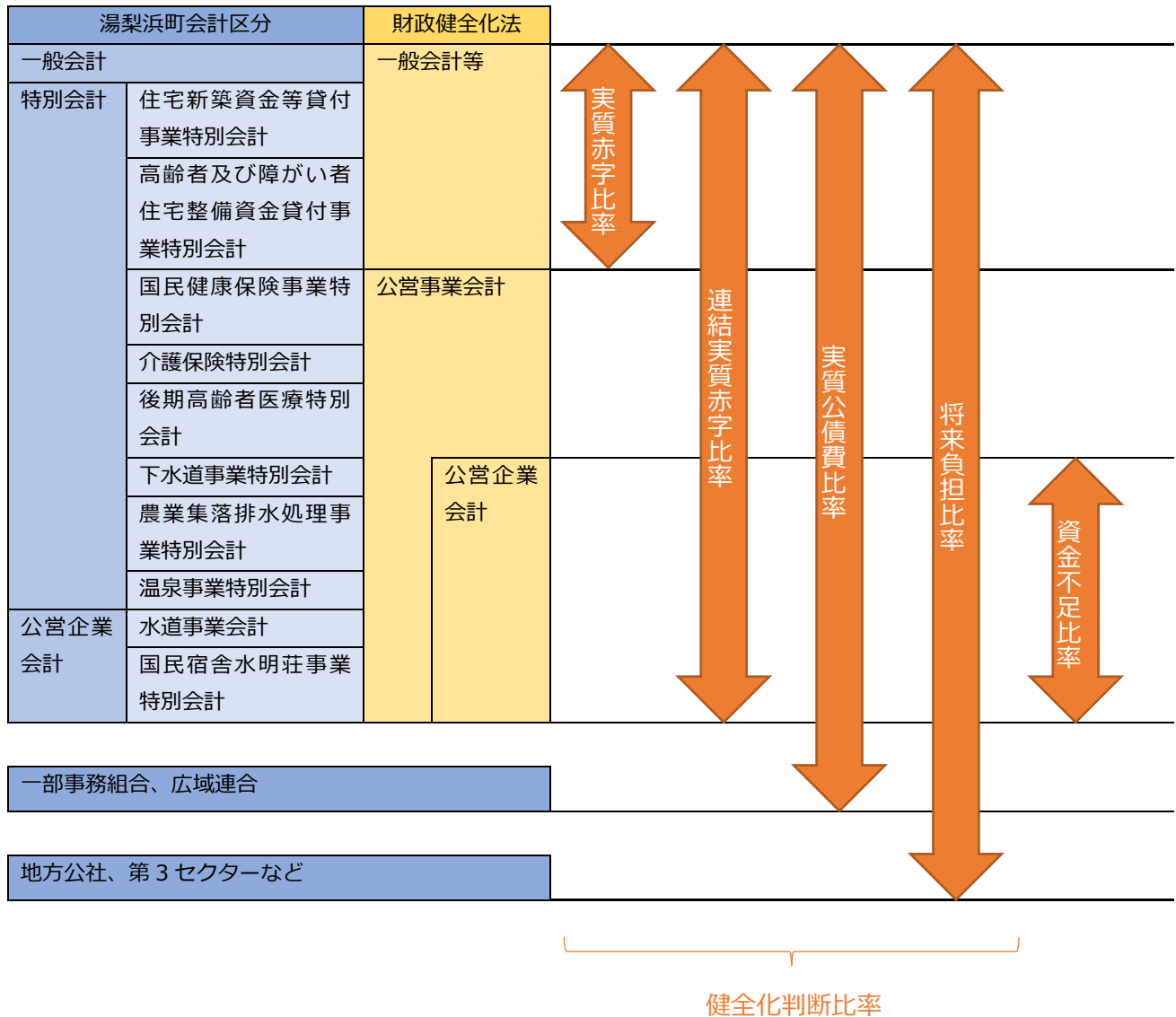


財政健全化法における健全化判断比率と資金不足比率の算出

1. 財政健全化法における会計区分



2. 健全化判断比率

(1) 実質赤字比率

各年度の経営状況を示す指標で「一般会計等の実質的な赤字額」が「標準的な状態で収入が見込まれる各地方公共団体の一般財源（地方税や地方交付税などの用途が限定されない財源）の規模」に占める比率を表します。

通常は、その年度に行った事業の支払いは、その年度の歳入によって行われることが原則です。実質赤字とは、財政状況からその原則に従えなかった額の合計です。

こうした赤字がない場合は、比率なしという意味で「-」と表示されます。

$$\frac{\text{実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

(2) 連結実質赤字比率

実質赤字比率と同様に各年度の経営状況を示す指標です。実質赤字比率が「一般会計等の実質的な赤字額」であるのに対し、こちらは地方公共団体の「一般会計」「特別会計」「公営企業会計」すべての会計を通しての赤字額が「標準的な状態で収入が見込まれる各地方公共団体の一般財源の規模」に占める比率を表します。

$$\frac{\begin{array}{|l} \bullet \text{ 実質赤字額} \\ \quad \text{(一般会計等、公営事業会計)} \\ \bullet \text{ 資金不足額} \\ \quad \text{(公営企業会計)} \end{array} - \begin{array}{|l} \bullet \text{ 実質黒字額} \\ \quad \text{(一般会計等、公営事業会計)} \\ \bullet \text{ 資金剰余額} \\ \quad \text{(公営企業会計)} \end{array}}{\text{標準財政規模}}$$

(3) 実質公債費比率

地方公共団体の公債費（地方公共団体が発行した地方債（借入金）の元本の返済や利息の支払いなどに要する経費）による財政負担の度合いを判断する指標で、3カ年の平均で示されます。実質公債費比率は「1年間の収入に対する借金返済額の割合」を示しているといえます。

地方債は、長期間にわたり利用される施設を建設する際などに、将来その施設を利用する町民にも費用を負担いただくために発行するものです。

$$\frac{\begin{array}{|l} \text{元利償還に必要な経費} \\ \bullet \text{ 地方債の元利償還金} \\ \bullet \text{ 準元利償還金} \end{array} - \begin{array}{|l} \text{償還に充てることができる経費} \\ \bullet \text{ 特定財源（元利償還金または準元利償還金に充当可能なもの）} \\ \bullet \text{ 元利償還金、準元利償還金に係る基準財政需要額算入額} \end{array}}{\text{標準財政規模} - \text{元利償還金、準元利償還金に係る基準財政需要額算入額}}$$

(4) 将来負担比率

地方公共団体が将来に支出しなければならない財政負担が、標準的な状態で収入が見込まれる地方公共団体の一般財源の規模の何倍にあたるかを占める指標です。つまり、将来にわたって返済しなければならない借金などが、1年間の収入の何倍かの割合を示すものです。

将来負担比率の大きな特徴として、一般会計、特別会計、公営企業会計の全会計に加えて、第3セクターなども比率算定の対象に含まれていることです。

例えば、第3セクターなどの団体が銀行などから借入れをする際に、地方公共団体がその損失補償をしている場合には、その団体の経営状況により、地方公共団体が負担する見込みのある額も含まれています。

※第3セクターなどが銀行などの借入先に返済できなくなった場合、地方公共団体が一定の範囲で損失額を補償すること。

将来に負担する見込額	支出に充てることができる額
<ul style="list-style-type: none">● 地方債の残高● 債務負担行為に基づく支出予定額● 公営企業債等の償還に対する繰入見込額● 退職手当等の負担見込額● 損失補償をしている3セク債等の負債額等の負担見込額 など	<ul style="list-style-type: none">● 基金の残高● 特定財源の見込額● 地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額
標準財政規模	元利償還金、準元利償還金に係る基準財政需要額算入額

3. 資金不足比率

水道、下水道など公営企業ごとの各年度の経営状況を示す指標です。「公営企業の資金の不足額」が「企業の事業の規模（料金収入等の規模）」に占める比率を表します。

資金不足がない場合は、比率はなしという意味で「-」を表示します。

$$\frac{\text{資金不足額}}{\text{事業の規模}}$$